

細く滑らかな木製の60枚の音板と金属製の共鳴パイプを持つ彼女のコンサートマリimbaで、6音を同時に鳴らし上げる。マリimbaのヴィルトゥオーゾとして、また、室内楽奏者として国際的に知られているミチカ氏を、「マレットと踊る奏者」、「類を見ない流動性」、「完璧なマレット捌き」、「素晴らしいリズムの精度」と評論家は評する。その賛美の数々は、彼女の演奏家としての個性を特徴づけている。

ソロではあまり聞かれることの無いマリimbaは、ポーリッシュのルーツを持つシュトゥットガルト在住の音楽家であるミチカ氏が自在に操るマレットによって奏でられる。

「この上なく豊かな音色に加え、幅広い音楽効果のパレットを併せ持つ」と専門家は証言し、また、エレガントかつダンスの様なエナジーを持つ彼女の演奏に観客も魅了されている。

1972年生まれの彼女は、幼少からピアノとドラムの手ほどきを受けた後、グダニスク、シュトゥットガルト、ザルツブルクの各音楽院で研鑽を積む中で、マリimbaを「自身の音楽表現の最適手段」として固めた。

そして1995年のルクセンブルク国際打楽器マリimbaソロ部門における優勝及び聴衆賞、その翌年シュトゥットガルト世界マリimbaコンクールでの優勝をはじめ、数々の国際コンクールで入賞を果たしている。それに伴う奨学金、また、アメリカ、アジア、ヨーロッパ諸国へのマスタークラスへの招待などによって、この若い音楽家は程なく音楽シーンにおけるネットワークを作り上げた。

マリimbaソリストとして、最も重要とされるマリimbaフェスティバルへの参加（1998年大阪、2004年リンツ、2010年ミネアポリス）のみでなく、世界の著名なオーケストラとの協演（Stuttgart Philharmonic、Bochum and Göttingen Symphony Orchestras、Polish Chamber Philharmonic Sopot、Vienna、Prague and Heilbronn Chamber Orchestra(WKO)、Beijing Symphony Orchestra、Camerata Israeli、Maribor、Neubrandenburg and Vogtland Philharmonic Orchestras、Folwang Chamber Orchestra、RSO Luxembourg、またポーランド各地のオーケストラ）によって、今日彼女は、歴史の未だ浅いこの楽器のパイオニアとして活動を重ねている。

今日見られる大きなサイズのコンサートマリimbaは、1980年代半ばに開発されたばかりである。ミチカ氏は1999年にポーランド打楽器協会から「ポーランド打楽器芸術大使」として任命され、マリimba人口の増加に尽力した。

彼女は若い演奏家の育成にも努め、国際コンクールへの審査員としての参加だけでなく、世界各地での様々な講習会、中でも2003年に設立したInternational Katarzyna Mycka Marimba Academy (IKMMA)、に力を注いでいる。

彼女の多彩なプログラムは、ヨハン・セバスチャン・バッハやセルゲイ・プロコフィエフの編曲作品のみならず、エマニュエル・セジオルネやアンナ・イグナトヴィッチなどの若い作曲家のマリンバオリジナル作品も含む。彼女はこれまでにそれらのプログラムを6枚のCDに録音している。

ミチカ氏は、マリンバの持つその魅力的な音色を理解し追求する作曲家と共同作業することに、多くの時間と情熱を注いでいる。彼女の行うコンサートの数や、多くの作品が彼女に捧げられていることが、作曲家との音楽を通じた強固な信頼関係を示している。

同様に、ドイツの弦楽四重奏団 Manderling Quartet とも、信頼置けるパートナーとして定期的に活動を行っている。弦楽四重奏とミチカ氏のマリンバは、批評家たちまた聴衆を驚かせ、同時に喜ばす。「どんな時も優美で、お互いを触発し合う、素晴らしく豊かな音色」と。